

令和6年度第1回「安全・安心な食のまち・さっぽろ推進会議」会議結果(概要版)

【日 時】令和6年7月9日(火) 10時00分～11時30分

【場 所】WEST19(中央区大通西19丁目)2階 大会議室

【議 事】

1 議 題

- (1) (仮称)第3次安全・安心な食のまち・さっぽろ推進計画骨子(案)について
- (2) その他

2 質疑応答の内容(○委員、●事務局)

- (1) (仮称)第3次安全・安心な食のまち・さっぽろ推進計画骨子(案)について
ア 「1 計画の策定にあたって」 ～ 「5 今後の課題」

①	○「2 前計画の取組と評価」について、イベント回数36回となっているが、札幌市子どもGメンのイベントもこの中に計上されているのか。 ●現地にて市民交流の実施や、食の安全に関する情報を発信したイベントは計上している。例えば、子ども食品Gメン体験事業、食品工場見学後に意見交換を行う市民交流事業、チカホで例年開催している食品の総合イベントなどが含まれる。 ○イベントの結果や成果について、市民への情報発信を行っているか。 ●参加した市民の方にアンケート調査を行い、前年度との比較等を行っている。その調査の具体的な内容については、ホームページに掲載する等の発信は行っていないが、イベントの参加者数や参加者の声などについては札幌市ホームページに掲載している。 ○子どもGメンは、具体的な体験ができるよいイベントであり、シニアGメンというものがあってもよろしいのではないかと思います。
②	○「4 市民(消費者)及び事業者の意識」について、アンケートはどこで行っているのか。 ●市民意識調査については、札幌市広報部で行っている。 令和4年度の情報を資料に掲載しているが、この際は無作為に抽出した市民に対し、調査票を郵送して回答いただく方法で行ったものである。
③	○「2 前計画の取組と評価」の目標値の設定について、設定根拠と設定に当たっての委員との合意形成についてどのように行われたか。また、目標値と結果が大きく乖離している場合に、目標の設定が適切だったのかという検証が行われているのか、設定の段階でその取扱いを決めていたりするのか。 ●目標値については、今回同様、第2次計画を策定する際に委員から御意見をいただき設定している。例えば、大規模食中毒の発生件数については、当初食中毒による死者数を0にするという目標設定も検討されたが、最終的には「大規模食中毒の発生件数0件」を目標値とすることになった。 また、目標値は行政、事業者、市民それぞれが関わって意見を出し、今後5年間で現状値からどれくらいの進捗が見込めるかを想定し、設定しているため、行政だけの力では達成が難しい項目もある。また、目標値と結果の乖離には新型コロナウイルス感染症の影響もあったと考えている。第3次の目標値設定に関しては、これらの点も踏まえて提案させていただきたい。 なお、資料2としてお渡ししている第2次計画の概要版最終ページに、目

	標値の設定にあたっての目標参考値が記載されているので御参考いただきたい。第2次計画作成に係る審議は令和元年度に行っており、目標値が新型コロナウイルス感染症により社会情勢が大きく影響を受けることが想定できない中で設定したもののため、一部については結果との乖離が発生している。 ○質問の意図としては、「目標値の設定が正しくなかったのではないか。」というのではなく、乖離が生じた理由について、事務局と委員が共通の認識で合意できていれば問題ないと考えている。
④	○「2 前計画の取組と評価」において、目標値として大規模食中毒の発生件数0件としているが、「3 食を取り巻く現状（国、札幌市、社会情勢の動き）」のトピック2において、札幌市での食中毒発生が複数件、記載されている。大規模かにかかわらず、食中毒の発生件数を目標項目に設定するのは如何か。 ●国において患者 500 名以上の事案を大規模食中毒としており、札幌市でもこれを目標値としている。食中毒の発生件数については、社会的な情勢による影響も大きく、目標値を設定するのが困難という状況がある。 また、資料で報告している食中毒件数については、あくまで保健所が把握し、調査の結果、食中毒と判断されたものであり、断定には至らなかったものや、申出がないもの等は含まれていない。どのような食品であっても食中毒のリスクはあり、保健所で食中毒の予防啓発を行っているが、それを「0」にするには現実的な難しさがある。食中毒が発生した場合の被害拡大防止も保健所業務として重要であり、これを目標項目として注力しているところである。 ○市内の食中毒発生件数については、「保健所が把握した数」等を付記したほうがよいのではないかと思います。（会長代理）
⑤	○「5 今後の課題」の課題②HACCP に沿った衛生管理の定着について、現段階でどの程度の事業者が取り組んでいるかを把握しているか。 ●中央卸売市場や大型スーパー等の広域流通する食品の関係事業者については、程度の違いはあるものの HACCP の導入を確認している。一方、一般的な飲食店については件数が多いこともあり、すべてを確認できていない部分もある。今後の監視指導の中で把握と導入、定着を進めていきたい。

イ 「6 施策体系と取組内容」～「7 進行管理（指標の設定）」

①	○「7 進行管理（指標の設定）」について、2点確認させていただきたい。 1点目は、「2 前計画の取組と評価」の中で「札幌の食イメージに安全・安心と回答する観光客の割合（市民）」については数値が取れていないという状況の説明があった。また、「観光客向け施設・大型イベントの監視件数（延べ）」については目標値を9,000件と設定しているが、約3,400件と目標に達していないということであった。このような状況で、第3次の指標設定においてこの2項目を無くすということにどのような意図があるか伺いたい。 2点目として、「アレルギー等ピクトグラムの認知度」、「食の安全・安心おもてなしの店認知度」を新たな指標として設定し、「食の安全・安心おもてなしの店登録件数」は無くすとのことだが、登録件数が増えなければ、認知度は上がらないのではないかなと思うが、どのような見解か伺いたい。 ●第2次の指標である「札幌の食イメージに安全・安心と回答する観光客の割合（市民）」については、時事的に発生した社会的事件の影響を受けやすい側面があるものと考えている。その中で、行政としての目標である、市民自身が食の安全・安心を意識した行動を行っていただくという観点から、今回新しく「行動を見直した市民の割合」という指標の設定を提案させていただいたところ。 また、認知度については、御意見のとおり登録数が増えなければ認知度が上がりにくいということもあるかなと思うので、再度検討させていただきたい。
②	○アレルギー等ピクトグラムに関して、絵文字の下に日本語が記載されているが、ここに英語を併記することはできないか。以前、外国の方に見せたところ、小麦やそば、あわび等については全くわからないとのことだったため、英語を併記することで観光客等に対して、よりわかりやすいものになるのではないかなと思う。 ●アレルギー等ピクトグラムは、文字を使用せず絵文字で表現するというのが基本的な考え方となる。事業者が絵文字だけではわかりにくいと感じる場合等に、絵文字の下に日本語を記載することを差し止めてはならず、使用方法についてはある程度事業者に委ねているという状況である。 ○ピクトグラムについては確かに難しさがある。温泉の絵文字をみて、スープカレー屋と勘違いした観光客がいるという話を聞いたこともある。（会長代理）
③	○「6 施策体系と取組内容」の食中毒等を想定したシミュレーション訓練について、オンライン型の開催を計画しているとのことだが、開催時期について予定はあるか。 ●今年度中に一定の計画を立てる予定だが、基本的には令和7年度からの開催を予定している。
④	○「7 進行管理（指標の設定）」における目標値設定の考え方について、これまで達成した目標に対し、さらに高い目標値を設定しなおすということも大切であるが、一定水準の達成状況を維持することも重要だと思う。継続的な水準の維持を行うことを指標とするという観点でも、目標値の設定を検討させていただきたい。 ○「これまでの実績をどのように評価して新たな目標値を設定するか」はなかなか難しい課題である。意見があった、持続性の観点からも指標の設定を検討させていただきたい。（会長代理）

(2) その他
特になし